

## 自分のダイヤモンド

小三

わたしのよいところってどこだろう。先生と「自分のよいところはどこだろう。自分の中にどんなダイヤモンドがあるかな。」という学習をしたときに、わたしはすぐに答えられませんでした。道とくのじゅ業で、

「友だちをはげましたり友だちにやさしくしたりしたことがありますか。」

と聞かれたときも、答えにこまってしまいました。やさしくされたことはたくさんあるけれど、やさしくしたりはげましたりしたことがあまり思いうか

ばなかったからです。他の友だちも、「やさしくされたことはあるけど、自分がしたことってないかもしれない。」

「Aちゃんにはげまされてうれしかった。自分にはげましていないと思う。」

と言っていました。

わたしは、自分のよいところさがし  
のときに、よく考えて、やっと「がんばり屋」とだけ書きました。そんなわたしたちに、先生は、

「おうちの人に聞いてごらん。きっともつと教えてくれるはずだよ。」

と言いました。

その日、プリントを持って帰り、お母さんに聞いてみました。するとすぐ

に、お母さんは「前向き、すなお、頭の回転がはやい、あいきようがある、じょうちよが安定してる。」とふりがなつきで書いてくれました。わたしはびっくりしました。お母さんがこんな風にわたしのことを思ってくれているなんて分からなかったからです。あつという間に、わたしのダイヤモンドを書くらんはいっぱいになりました。

次の日、他の友だちのらんも見てみました。いっぱいでした。自分一人で考えているときには、

「書けない。」

と言っていた友だちも、いっぱい書いてもらっていました。

「すごいな。」と思っていたときに、先生から本をしようかいされまし

た。それは「ココロ屋」という本でした。主人公のひろきくんはらんぼうもので、友だちとなかよくしたいのに、すぐにけんかをしてしまいます。そんなひろきくんが、ココロ屋さんからやさしいココロやすなおなココロ、あたたかいココロなどを手に入れるという物語です。いろいろなココロを手に入れるたびに、ひろきくんは「今度こそ友だちとなかよくなれるように。」「みんながぼくをすきになってくれるように。」とねがいがながらココロをえらんで入れかえます。でも、やさしすぎて、すなおになりすぎて、家ぞくや友だちをきずつけたり、きずつけられたりしてしまいます。そんなひろきくんがさい後にえらんだのは、何と元通

り、つまり自分のココロだったので  
す。ココロ屋さんは言います。

「さい後にはかならず、『自分のココ  
ロを返してください。』とだれもが  
言ってくるのです。」

と。

このお話を聞いてわたしは、「人と  
いうのはいろいろなココロがあつて、  
自由にできるのがいい。」と思いまし  
た。そう考えると、「自分にとって  
『いやだな、きらいだな。』と思つて  
いるところも、他の人から見ると『う  
らやましい、そうなりたい。』と思わ  
れているのかな。」と考えました。

自分のダイヤモンドをさがすとき  
も、やさしくしたりはげましたりした  
ことがあるかと聞かれたときも、わた

しも友だちもすぐに思いつくことはで  
きませんでした。けれど、他の友だち  
のよいところはすぐに思いつきまし  
た。わたしはこれから、友だちだけ  
なく自分のよいところも見つけていき  
たいです。